

《合併15周年記念》
久喜市の未来を語らうタウンミーティング
～住み続けたいまちの実現に向けて～

日 時：令和7年10月16日（木）19時～20時15分
場 所：鷺宮西コミュニティセンター
参加人数：31名

【意見交換要旨】

①. 鷺宮福祉センターおよび鷺宮温水プールの再編について

主な意見・提案	市長の回答（要旨）
鷺宮福祉センターおよび鷺宮温水プールは高齢者の健康維持や交流に不可欠であり、閉鎖は要介護者の増加や将来的な財政負担増を招く恐れがあります。利用者が多い現状を鑑み、除却方針を再検討してほしいです。	公共施設マネジメントに基づき、老朽化した施設の集約は避けられません。今後は、既存のコミュニティセンターの活用や、令和9年完成予定の新ごみ処理施設に併設される余熱利用施設への機能集約を図ります。新施設は環境負荷が低く、公共交通の拠点とすることで利便性も確保されます。皆様が納得できる形で、持続可能な福祉・スポーツ環境の整備を進めてまいります。

②. 義務教育学校周辺の通学路整備について

主な意見・提案	市長の回答（要旨）
義務教育学校の開校にあたり、通学路の拡幅や防犯灯整備、耕作放棄地の適正管理など、子育て世代が安心できるインフラ整備をお願いします。	義務教育学校は、通学路の整備も含めて、総合的に魅力ある学校にしていかなければなりません。県道川越栗橋線の交差点については、埼玉県と協力して改良するとともに、わし宮団地方面の狭隘（きょうあい）道路等についても交通事故が起きないように、安全の確保に努めます。

③. 運転免許返納者への支援と地域公共交通の再構築について

主な意見・提案	市長の回答（要旨）
高齢化による運転免許返納者が増加する中、バス路線がない地域の移動負担が深刻です。不公平感の解消に向け、タクシー無料券の配布など支援を拡充してほしいです。	運転免許返納者への支援には、地域におけるさらなる利便性の向上が急務と認識しています。令和9年の新ごみ処理施設完成に合わせた交通体系の抜本的見直しに向け、デマンド交通やくきふれあいタクシーの利用しやすい環境づくりやタクシー助成のあり方を検討します。深刻な運転手不足への対策として、自動運転技術の導入も視野に入れ、持続可能な移動手段の確保に努めてまいります。

④. 自動運転バスの導入に向けた検討について

主な意見・提案	市長の回答（要旨）
茨城県境町で実証実験されている自動運転バスを参考に、久喜市でも導入を検討してはどうでしょうか。将来的に4地区を巡回する複数コースの運行を提案します。	自動運転バスは現状レベル3であり、社会実装には法整備やオペレーターの乗車が必要な段階です。 しかし、将来的な運転手不足の解消策として導入は不可欠と認識しています。地域間の利便性の不公平感をなくすため、効率的で持続可能な運行システムの導入に向け、自動運転技術も視野に入れながら検討を進めてまいります。 なお、市独自でのバス運行は現実的でなく、運行会社への委託がコスト面からも適切であると考えます。

⑤. 県道さいたま栗橋線における右折帯設置について

主な意見・提案	市長の回答（要旨）
県道さいたま栗橋線上り、パチンコ店と中川付近の交差点は右折帯がなく、後続車への危険や渋滞の原因となっています。県に対し、右折帯または右折信号の設置を働きかけてほしいです。	当該交差点は、今後予定されている中川の橋梁架け替えを含む大規模改修に合わせて、右折帯が設置される計画です。 完成までの間も、安全確保と渋滞緩和が図られるよう適切に対応してまいります。

⑥. 自宅周辺の耕作放棄地における雑草対策について

主な意見・提案	市長の回答（要旨）
自宅周辺の放置された農地で雑草が生い茂り、近隣に影響が出ています。市として現状を把握し、対策を講じてほしいです。	耕作放棄地の適正管理を所有者へ呼びかけていますが、私有地のため強制力がなく、対応に苦慮している現状です。 根本的な解決に向け、管理不全に陥る前の農地集約や後継者育成、利活用の促進に注力してまいります。今後も長期的な視点で農地の流動化を進め、適切な維持管理体制の構築に努めてまいります。

⑦. 鷲宮福祉センターの除却と公共交通の整備について

主な意見・提案	市長の回答（要旨）
鷲宮福祉センターを、代替施設への移行ではなく気軽に集える場として存続してほしいです。除却が避けられない場合でも、現状不十分な公共交通の運行本数増など、移動手段を確実に整備することを要望します。	地区内で最も老朽化が進む同センターの機能集約は、市全体の個別施設計画、避けられない苦渋の判断です。 移動手段の確保は重要な課題と認識しており、「地域公共交通会議」などを通じて皆様の声を伺いながら、移動の足となる公共交通の再構築と充実に努めてまいります。